西山雄介(経2)

三重県　伊賀白鳳高校
5000m:13 分 57 秒 04
(全日本インカレ 14/9)
10000m:28 分 58 秒 01
(平国大記録会 14/4)

昨年は1年生ながらすべての三大駅伝に出場。持ち前のスピードを生かし、1年生とは思えない好走をみせた。監督からさらなるレベルアップを期待されている一人。今年は1度も区間賞がとれなかった悔しさを晴らすべく、三大駅伝に挑む。

中谷圭佑(経2)

兵庫県　西脇工業高校
5000m:13 分 38 秒 08
(GGN　14/5)
10000m:28 分 30 秒 52
(ホクレン DC 深川 14/6)

2年生ながら駒大の中でも 5000m2位のタイムを持つ。憧れの 4 年村山を追うように、昨年から大きく記録を更新してきた。昨年は、夏の不調を乗り越え、西山と同じくすべての駅伝に出場した。2年目となる今年の駅伝ではチームの流れを作ることが目標と語っている。

西澤佳洋(商4)

千葉県　西武台千葉高校
5000m:13 分 55 秒 17
(日体大記録会 14/4)
10000m:28 分 51 秒 65
(日体大記録会 14/4)

今年の箱根駅伝で初出場ながら区間5位。トラックシーズンでは、5000m、10000m、ハーフとすべての自己記録を塗り替えた。今年は最高学年としてチームを引っ張る。

黒川翔矢(現4)

栃木県　作新学院高校
5000m:14 分 04 秒 79
(日体大記録会 14/4)
10000m:28 分 54 秒 35
(日体大記録会 13/9)

夏合宿では不在の中村に代わり、村山らと共にチームを引っ張ってきた黒川。昨年の全日本では7区に出場し、区間2位の好成績を残している。安定感のある走りで、駒澤4連覇に貢献するか、期待される。

この選手に注目！

其田健也(営3)

青森県　青森山田高校
5000m:13 分 50 秒 14
(ホクレン DC 網走 14/7)
10000m:29 分 04 秒 79
(ホクレン DC 深川 14/6)

上半期は自己ベストを更新し、自身でも良い結果だったと語る。2位でゴールテープを切った箱根での悔しさを胸に練習を積んできた其田。ここからの駅伝シーズンでその成果を発揮できるのか期待される。

馬場翔太(商3)

岡山県　倉敷高校
5000m:13 分 57 秒 25
(ホクレン DC 網走 14/7)
10000m:29 分 02 秒 78
(平国大記録会 14/4)

昨年の全日本で駅伝デビュー。箱根では「山登り」である5区を担当し、区間3位と健闘した。そこから自己記録を次々と更新し、急成長を遂げている。同じく急成長中の其田との3年生コンビで全日本連覇を導く。

高本真樹(経1)

福島県　学法石川高校
10000m:記録なし
5000m:14 分 01 秒 63
(日体大記録会 13/12)

駒大では珍しく、学法石川甲高校出身。「今年の1年生は優秀」という監督の言葉通り、けがなく夏合宿をこなしてきた。「自分はまだまだ」と謙虚だが、ルーキーとして初めての大学駅伝でどのようなデビューを飾るのか、期待が高まる。

工藤有生(政1)

広島県　世羅高校
5000m:14 分 07 秒 27
(日体大記録会 14/9)
10000m:記録なし

この夏合宿で最も伸びたと言っても過言ではない1年生。監督やコーチからも評価されている。実際、夏明けの記録会では 5000mでの記録を更新。長い距離での実績がまだないため実力は未知数であるが、勢いのあるこの 1 年生の出場の可能性は高い。